

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

毎月、全生徒を対象に学校生活アンケートを実施している。「学校は楽しいですか」の質問項目に肯定的ではない回答した生徒には、7項目の質問を追加し、早期にいじめや不登校等の兆候を発見するとともに、担任を中心に迅速に聞き取りを行っている。聞き取った内容は生活指導部をはじめ学年、養護教諭、SC、SSW、不登校対応巡回教員で共有し、アンケートに回答した生徒の支援に留まらず、他の生徒に指導が必要なものであれば、どのように指導するかについて内容や体制も含めて生活指導部会で検討している。毎月アンケートを行うことで、問題行動やトラブルの早期発見につながり、全ての生徒にとって学校が居心地の良い場所になることを目指している。

#### 【取組2】(A中学校)

開校の周年行事の際に、集会や関連する学校行事の実施、地域行事への参加など、様々な取組を行った。バルーンリリースは小中一貫教育校であることを生かし、中学生と小学生の交流を図ることができるよう風船に書いたメッセージを交換して、人間関係を育んだ。最終的に、地域の方と共に1000を超える風船を空に送り出した。異学年の交流の中で一体感を感じながら、歓喜の声とともにきずなが深まった。



#### 【取組3】(A中学校)

個別最適な学びを保障する授業を、複線型授業にテーマにして校内研究で進めている。また小中一貫校の強みを生かし、中学校の授業を体験できる機会の設定や小中の教員が合同で校内研究を行っている。生徒自身が学習方法を選び、学習活動に臨んでいる。

#### 【取組4】(B中学校)

職員会議の後、不登校研修キットを使用したミニ研修を実施した。アセスメントを的確に行うことで不登校の初期対応を迅速に行い、組織としての動きを確認するとともに、支援シートの使い方を紹介した。

## 多様な学びの場を確保する取組

### 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

#### 支援会議（C中学校）

毎週行われる生活指導部会・支援会議のために、不登校生徒や様子の気になる生徒の週ごとの出欠状況をまとめた資料を作成している。オンライン等で不登校対応巡回教員も会議に参加し、支援生徒の状況の共通理解を図り、課題の早期発見や適切な対処ができるよう体制を組んでいる。

#### アウトリーチによる支援（D中学校）

生徒の保護者から、家庭訪問に関する相談があった。校内委員会で支援方法を検討して、家庭訪問を実施することになった。家庭訪問を行い、生徒と面会するなどして生徒が登校できるように人間関係を構築した。こうした支援を実施したことで、継続的に登校できるようになった。

#### 校内別室における支援（D・E中学校）

生徒会室のように放課後を中心に使用する教室や図書室を活用して、それらの部屋を別室に設定して生徒の支援を行っている。大きくレイアウトを変えず、ホワイトボードなどで区切るなどして使用し、既存のリソースを利用して環境を整えることで、別室としての機能を果たす部屋を用意した。生徒の状況に応じて学習や、図書資料の活用もできるので、生徒への支援や学習活動の幅が広がった。



#### デジタル機器を活用した支援（D中学校）

生徒の一人1台端末を活用し、教室に配信用機器を設置してオンライン接続をしている。別室登校をした生徒が、希望する授業の様子を校内別室で見て、学習を進めることができるようにしたことで、学習の機会の確保と学級との関係の構築にも役立っている。

#### 関係機関との連携（全巡回担当校）

教育支援センターで行われた不登校生徒の保護者を対象とした保護者の会にファシリテーターとして参加した。内容としては講演会と懇談会の2部構成で行われた。講演や保護者同士の懇談を通して情報交換が活発に行われた。参加した保護者から好評で再度行うことが決まった。

## 成 果

支援の結果、不登校であった生徒が登校できるようになった。また、不登校対応巡回教員が担任と情報共有することで教員間の連携が強化され、支援の充実につながった。

## 課 題

不登校について、家庭ごとに様々な考え方があるので、学校だけでなく関係機関も含めて、家庭との連携を進めていく必要がある。